

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ミカ ⑩ - 私たちを新たに改めて導く者』

武田真治牧師

ミカ書 5:5-14 ローマ手紙 8:5-11

ミカ書5章には“ベツレヘム預言”があり、よく引用されます。同時に今日の6節以下も重要な預言です。即ち「ヤコブの残りの者は、多くの民のただ中において、主から降りる露のよう、草の上に降る雨のようだ。」です。

ここで聖書によく登場し、かつ重要な「残りの者」という言葉が出ています。かつて、バビロニア王国によってエルサレムとエルサレム神殿が破壊され、イスラエル王国が滅ぼされました。その住民がバビロンに奴隷として連行されて以来、世界中に散らされた状態で生き抜かなければならなくなったユダヤの人々は、自分たちこそ、この「残りの者」だと考えるようになりました。それ故、例えば今日の箇所の後半にある「ヤコブの残りの者は、多くの民のただ中において、森の獣の中にいる獅子、彼が進み出れば、必ず踏みつけ、引き裂けば、救いあるものはない。敵はすべて倒される。」という言葉こそ自分たちだと考え、それ故、今も彼らは戦いを止めません。自分たちの力ですべてを勝ち取ろうとしています。

しかし、私たちキリスト者も「残りの者」とであると信じています。私たちキリスト者もまた、国家や民族を越えて「多くの民のただ中に」存在しています。ただし、それはユダヤの人々のように、その周囲の敵を倒していく戦いをするのではなく、むしろ、最初の5節の言葉の通りに、置かれている場所に於いて「主から降りる露のよう、草の上に降る雨のよう」な存在にされたいと願って生きていくべきだと！

ここでの「露」とは原文で（タル）という言葉で、これは（朝露）を指します。旧約聖書の舞台はほとんどが乾燥した場所ですから、雨の降らない時期は寒暖差の激しさから生じる朝の霧や露が、植物や小動物にとって貴重な水分となります。また「雨」も（レビビーム）という言葉でこれは（夕立ち）を指します。乾燥地帯に一気に多量に降る雨は、すぐに染み込んでしまうよう見えますが、その水が溜まった所から

新しい草の芽がすぐに芽吹いてきます。まさに、キリスト者は神様から各々が置かれている、その場所で、天からの「露や雨」のような存在として生きるように、そうあってほしいと神様は私たちを選び、導いておられるのではないかと。

そして、その露や雨は「主から降りる」と言われています。それは何より主の言葉＝み言葉ではないでしょうか？その乾き、荒れ廃れているような場所が本当に必要とされているものは主のみ言葉であり、福音のメッセージではないかと。

そしていつか「その日が来れば、わたしはお前の中から軍馬を絶ち、戦車を滅ぼす。呪文を絶ち、魔術師は姿を消す。偶像を絶ち、石柱を絶ち、もはや自分の手で造ったものにひれ伏すことはない。」という時が来ると預言されています。その日を待ち望みながら、周りの人々に“潤い”を伝えていける者に少しづつでも、新しく変えられたい！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月13日(水) 20:00
II. 12月14日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: ひつじ雲の会を覚えて
担当者: (水) 相浦 (木) 木村
祈りに覚える人: 中澤さん 長田さん
ハンナの会: 12月12日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男24 女55 計79
祈祷会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女8 計9
日曜学校 幼稚科16 小中科15 計31

【次週主日礼拝】 12月17日(日)

聖書: ミカ書 6:9~7:7
ルカによる福音書 12:49~59
説教: 「待降節・ミカ⑩—わが救いの神を待つ」
武田真治牧師
讃美歌: 242(1~3)、230(1)、32、聖歌隊II-215、235(1~4)、453(1~3)、91(1)

【次週当番表】

司式: 齋藤長老 奏楽: 須田 礼拝: 金刺長老
献金: 丸茂 水澤 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 小杉 富澤 長田 橋本 北條
看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習
・オリブの葉編集委員会 日曜学校教師会 幼稚園理事会

2023年 12月 10日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>